

# 事業報告書

第1期(2015年度)

自 2015年10月 1日  
至 2016年 3月31日

特定非営利活動法人メディカルイメージラボ

## 2015年度 事業報告

### 1. 遠隔画像診断支援事業

- ・ 2015年度の合計読影件数は28,009件(核医学741件を含む)、1ヶ月の平均件数は4,668件であった。
- ・ 核医学(読影医2名)を除く読影医数は34名で一人あたりの1ヶ月平均読影件数は134件であった。
- ・ 被支援医療機関数は45機関で1医療機関あたりの1ヶ月平均読影依頼件数は104件であった。
- ・ 他、月別読影件数は別紙01参照。
- ・ 事業別損益は経常収益合計78,266,878円に対し経常費用合計は63,303,206円であった。

### 2. 遠隔放射線治療支援事業

- ・ 2015年度の放射線治療支援件数は826件、1ヶ月の平均件数は137件であった。
- ・ 治療専門医は11名で一人あたりの1ヶ月平均支援件数は13件であった。
- ・ 被支援医療機関数は6機関で1医療機関あたりの1ヶ月平均支援依頼件数は23件であった。
- ・ 他、月別治療支援件数は別紙02参照。
- ・ 田中貴金属工業(株)へ治療用金マーカのコンサルティングを行った。
- ・ 事業別損益は経常収益合計7,626,960円に対し経常費用合計は6,317,692円であった。

### 3. 医学研究・医学教育支援事業

- ・ 2015年12月12日(土)15:30より北海道大学学術交流会館において第6回北海道NR懇話会を共催した。詳細は別紙03の通り。
- ・ 2016年2月9日(火)18:30より北大病院MRIカンファレンス室において第1回画像診断講演会を開催した。詳細は別紙04の通り。
- ・ 北海道大学から「肝嚢胞に対する球状塞栓物質を用いた肝動脈塞栓術治療の有効性および安全性を検討する多施設共同臨床試験」において得られる画像データの解析・評価業務の委託を受けた。実施件数は肝容積+肝嚢胞容積測定が3件、標的血管塞栓の評価13件であった。
- ・ 事業別損益は経常収益合計2,839,428円に対し経常費用合計は2,319,937円であった。

### 4. 共同研究型医療用システム及び医療材料・医療器材の研究開発事業

- ・ (株)メディカルイメージラボとキヤノンマーケティングジャパン(株)が共同で開発したメディカルイメージプレース(MIP)へのリプレースを完了し、使用評価を行った。
- ・ 事業別損益は経常収益合計0円、経常費用合計0円であった。

裏面に続く

表面から続く

#### 5. まとめ

当期の経常収益は会費収入および事業収益で107,765,244円を達成し、経常費用合計81,695,727円を差し引き26,069,517円の増益となった。これは旧株式会社による10月经常費用負担(2,193,337円)および読影用機材等の資産受贈益(18,196,396円)、治療用金マーカのコンサルタント料(324,000円)が主な要因であり、これらを差引いた5,679,782円(月平均946,630円)が今年度の実質的な利益であった。

以上